

平成22年度研究開発成果概要書
「革新的光ファイバ技術の研究開発」

(1) 研究開発の目的

本研究開発においては、光通信の伝送容量増大の限界を打ち破る一つの方策として、伝送線路としての空間多重型のマルチコアファイバにかかわる研究開発を行う。マルチコアファイバの期待される空間的多重度に対してキーとなる光学特性は、コア間のクロストークである。実用伝送線路としての完成度を上げていくためには、長尺ファイバにおけるクロストークの挙動解析を進めることが不可欠である。伝送路として不可欠となる種々の特性を考慮に入れながら、高密度のマルチコアファイバの開発を進め、将来的な標準品となりうるマルチコアファイバにむけた技術確立を目的とする。

(2) 研究開発期間

平成22年度から平成24年度（3年間）

(3) 委託先企業

（株）フジクラ

(4) 研究開発予算（百万円）

| | |
|--------|----|
| 平成22年度 | 33 |
| 平成23年度 | 31 |
| 平成24年度 | 30 |

(5) 研究開発課題と担当

課題ア：マルチコア光ファイバの設計方法および製造方法に関する研究開発

(6) これまで得られた研究開発成果

| | | (全体) 件 | (当該年度) 件 |
|------|---------|--------|----------|
| 特許出願 | 国内出願 | 4 | 4 |
| | 外国出願 | 0 | 0 |
| 外部発表 | 研究論文 | 1 | 1 |
| | 報道発表 | 0 | 0 |
| | その他研究発表 | 1 | 1 |
| | 展示会 | 0 | 0 |
| | 標準化提案 | 0 | 0 |

具体的な成果

- (1) マルチコアファイバのコアごとのクロストーク評価を行い、コア間のパラメータの違いにより、曲げ径依存性が異なることを実験的に明らかにしました。
- (2) 上記の実験結果の傾向が、パワー結合理論を用いることにより良く説明できることを明らかにしました。
- (3) 以上の成果を電子情報通信学会および IEICE ELEX にて発表いたしました。